

こんな風につかっています
私の電子情報活用事例

vol.8

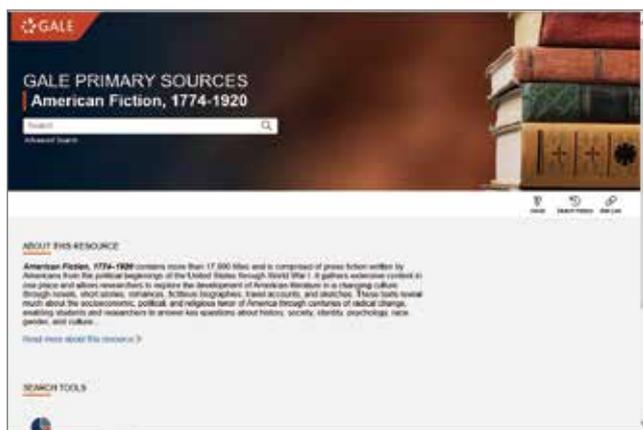
American Fiction, 1774-1920

—アメリカ文学を楽しむ・知る・学ぶための玄関口—

商学部・言語コミュニケーション文化研究科准教授 島貫 香代子

「American Fiction, 1774-1920」は 2019 年度研究設備の一つとして購入して頂いたデータベースであり、2019 年 5 月 30 日より利用が開始された。以下では、その概要と利用について紹介したい。

本データベースは、独立宣言直前から第一次世界大戦直後にかけてのアメリカ文学作品 17,750 点を忠実に電子的に再現したものである。この中には有名な作品だけでなく、取り上げられる機会が少ないながらもアメリカ文学史を考えるうえで重要な作品が数多く収録されている。これまでウェブ上では閲覧できなかった作家や詩人による作品も 4,000 点以上搭載しており、アメリカ人の自己認識の歴史を網羅的に考えるうえで、きわめて有用な基礎資料となっている。



データベース「American Fiction, 1774-1920」トップページ

本データベースには、フルテキスト（全文）検索だけでなく、データベースという特性を生かした書誌情報による絞り込み検索、文書の印刷・ダウンロード・エクスポート、タグ付与、注釈、用語の出現頻度や検索語の関連語のグラフ化など、様々なデジタル機能が備わっており、効率的かつ体系的に一次資料にアプローチすることができる。他の Gale Primary Sources のデータベースとの横断検索も可能であるため、本データベースはアメリカ文学研究のみならず、当時の思想、宗教、歴史、科学、経済、政治の様態を調査する学際研究的な視座においても、貴重な基礎資料になると思われる。

たとえば、実在の人物がアメリカ文学作品にどれほど登場するのかを知りたいとする。南北戦争時の南軍の総指揮官であるロバート・E・リー将軍の名前で検索してみたところ、211 作品ヒットした。興味深いのは、そのうち全体の 3 分の 2 を占める 141 作品が 1897 年以降に出版されていることだ。南北戦争が 1861 年から 1865 年にかけて行われたことや、リー将軍が 1870 年に死去したことに鑑みると、もう少し前に最初のピークが来ていてもよさそうなものだが、世紀転換期にリー将軍ブームでもあったのだろうか。気になるところである。



「Robert E. Lee (ロバート・E・リー将軍)」の検索結果

本データベースは、このような思わぬ発見やふとした気づきにあふれている。アメリカ文学研究者のみならず、アメリカ社会を垣間見るきっかけとしても、なるべく多くの方々に本データベースを利用して頂けることを願っている。

American Fiction, 1774-1920 とは

「American Fiction, 1774-1920」は、植民地時代から第一次世界大戦終了期におけるアメリカの散文フィクション作品をページイメージで収録し、全文検索も可能なデータベースです。アメリカ文学発展の変遷を探究できるとともに、社会経済、政治、宗教、歴史、文化、人種、ジェンダーなど幅広い分野の研究に活用できます。